

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

懐かしき森への道

私が小学生の頃の富岡駅は現在よりも杉田寄りのトンネルに近い所にあり、いくつもの野や谷を越えて行くには子供の足ではとても無理でした。その山道を左に行くと現在の氷取沢高の裏山から、その先の追分という分岐点に出る(六国峠ハイキングコース)当時、地元の人たちは「泥棒街道」と呼び実際に泥棒が山道に逃げ込み盗品を隠し、頃合いを見て出てきたところを捕まる、ということがよくあったようである。この山道を右に下ると氷取沢から峰の灸、円海山をへて鎌倉へ、反対方面に行けば能見堂跡から金沢文庫へ抜けられ賊にとっては都合のよい道だったので、私の父もよく山狩りにかりだされたそうで、その昔話を今は懐かしく思い出します。

さて、現在の富岡駅ホームから山手方面を眺めると今は立派に舗装され左右に商店が連なり富岡小の校舎の屋根が見える。その頃の学校付近の山間では冬は薪を採り炭焼きも盛んにおこなわれていて校舎からもその煙がよく見えたものである。

炭焼きの方法も正式に窯で焼く方法や簡便法として、窪地で材を蒸し焼きにし、土をかぶせるという原始的な方法も行われていたようで材は主として雑木だったと古老が教えてくれた。

その遠方の山々の向うに今は金沢自然公園やそれに連なる市民の森が遠くかすんで見えるが昭和30年前後の頃は、遠足と言えば海か山で富岡海岸や長浜検疫所(現、横校グラウンドから野鳥公園辺り)山の方は、追分を経て能見堂跡や円海山に遊んだものである。今から50数年も前のことで、その後の宅地開発や横横の開通などにより山道はずたずたに寸断され、特に金沢自然公園側の森は昔の面影は無くなつてしまったようで心なしか淋しい気もする。しかし、一步森に入れば小鳥のさえずり、せせらぎの音、草原を渡る風の音、私にとってこの森は心身をリフレッシュさせてくれて、まさに、癒しの森と言っても過言ではありません。幸いにして、円海山市民の森から自然観察の森にかけては、まだまだ自然がいっぱいです。これからも、この大切な森を皆で育て守り残したいものです。

増田 日出男



1. 5～6月の活動報告

- ① 5月22日(土)晴 19名 製材、クヌギ林下草刈り、炭出し、炭材作成、桜用プランタx2作成
- ② 5月29日(土)曇 13名 準活動日。木工、道具手入れ、炭材積み
- ③ 6月5日(土)晴 21名 トウネズ間伐(10本)、桜移植(畑PJ共同)、木酢蒸留
- ④ 6月12日(土)晴 16名 池の上・桜林下草刈り、椎茸ホダ木本ぶせ
- ⑤ 6月19日(土)曇 13名 炭焼き、下草刈り
- ⑥ 6月20日(日)曇 7名 炭焼き、木酢蒸留
- ⑦ 各水曜日ほかに準活動日として木工作業を実施



5月15日(土)ウバメガシを1日で焼いてみました(ドラム缶窯)。なかなか良く焼けました(^)
詳しくは、こちらを
<http://zfc.yamagomori.com/may10sumiyaki.pdf>



種から育てたヤマザクラ・オオシマザクラの実生を、畑PJの畑に移植させて貰いました。
早く大きくなあれ！

2. 6月度運営会報告 —6月19日開催—

- ① 7月の作業打ち合わせ —3項参照—
- ② ZFC20周年記念イベント検討<佐野さんほかプロジェクトメンバ>
 - 1)日時は10月9日(土)とし、予備日を10月23日(土)とする。場所は炭小屋
 - 2)出席者:会員、センター職員・野鳥の会代表・友の会役員数名の50名程度
 - 3)行事予定
 - ・記念標柱作成 → 門柱を兼ね頭部にフクロウを載せる案が有力
 - ・記念バッジ(会員証を兼ねる)の作成 → 3cmx2cm。炭小屋に掲げてある「葉っぱ」図案で概算を取る
 - ・記念誌の発行 → 内容を詰めるなど詳細検討が必要
 - ・祝宴会 ・記念撮影 ・これまでの作品や表彰額の展示 ・ZFCパンフレットの見直し ほか

3. 6～7月度活動予定

- ① 6月26日 製材、炭出し、炭小屋整備、道具の手入れ、クヌギ林管理作業。炊事当番:吉田・林
- ② 7月3日 竹林整備、下草刈り、材皮むき。同:佐野・竹内
- ③ 7月10日 下草刈り、トウネズ間伐。同:工藤・村松
- ④ 7月17日 下草刈り、トウネズ間伐、運営会・勉強会(センター研修室)。同:片岡・鬼塚
- ⑤ 7月24日 製材、炭出し、炭小屋整備、道具の手入れ、クヌギ林管理作業。同:佐藤・?
- ⑥ 7月31日 準活動日扱い。横浜栄高校受入れ<午後。片岡・藤原・竹内・鬼塚・鈴木ほか>
- ⑦ 8月7日 暑気払い(午後。担当:大越・張間・鈴木・林)
- ⑧ 毎水曜日:準活動日

4. 編集後記

- ① 巻頭コラムを増田さんです。人生は道に例えられます。その道を寸断されることは我が身を切られるに等しいと感じるのは当然かもしれません。

以上